

表5-1 多様な主体の参加による共同管理の仕組みの構築に関連した生物多様性地域戦略における具体例

◆各地方公共団体の特徴的な取組

促進方策の分類	有効と考えられる施策の検討・提案	地方公共団体の関連する取組
1) 参加者の活動の受入体制整備のための方策 (地域側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性・課題・意志の顕在化と外部への発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な主体による取組の情報収集・発信 ・ データ・標本（市民共有の財産）の保管と公開・市民活用 ・ 多様な主体の参画による情報収集・蓄積・活用の体制・仕組みづくり ・ 里山里海地域そのものを博物館と見立てた里山里海ミュージアムづくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内での情報共有・連携・合意を担う組織体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県、NPO、市町村、地域住民が一体となった里山活用推進連絡会議による方策検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的活動の実施方針の検討及び技術・ノウハウの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山に関する指導者・実践者の育成 ・ 自然観察会や各種体験講座の実施 ・ 森林づくりのプランナーの育成・活用 ・ スキルアップ研修等実施による担い手育成 ・ 自然観察指導員等指導者の育成・登録 ・ 「生物多様性環境ドクター」養成研修による地域の保全活動実践リーダーの育成 ・ エコツアーリズム・ガイドとの連携によるインタープリター育成 ・ 地域と多様な主体を結びつけ、利用や保全活動を推進するコーディネーター、アドバイザーなどの育成・活用 ・ 里山里海の生態系等の意味・重要性、人の暮らしとの関わり等に関する講座の充実 ・ 農業者、林業就業者の育成、新規漁業後継者の育成など、農林水産業を担う人材の育成
2) 参加意欲や意識向上のための方策 (社会全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里地里山の共同管理による効果の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流の自然環境の価値評価による流域全体で支えるしくみづくり ・ 市民団体などと連携したモデル事業実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各主体の責務・期待する役割と具体的な行動指針の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全活用の取組促進に向けた計画作成 ・ 市町村の生物多様性保全に関する行動計画策定指針の作成による計画策定支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好事例への社会的評価と発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優良地区の表彰 ・ 市民自然遺産などとして指定、良好な自然スポットの市民協働による評価のしくみ作り ・ 里山里海保全活動に積極的に取り組む学校を里山里海スーパースクールに認定・支援 ・ 市民の守りたい、伝えたい谷戸環境の選定

<p>3) 具体的活動を促すための方策 (興味持つ主体向け)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全重要性・緊急性等の判断による優先地域の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラスト基金の募金やトラスト地の保全活動などトラスト運動の展開
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政・NPO 等による各主体間の仲介・調整の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「里山情報バンク」を通じた里山活動団体等への情報提供・コーディネート ・ 企業と NPO・NGO とパートナーシップに向けたマッチング支援 ・ 「森林ボランティアサポートセンター」による情報提供・相談業務実施 ・ 「地域おこし協力隊」、「田舎で働き隊」などの制度を活用し、地域社会の新たな担い手づくり ・ 農業希望者と農家との情報交換・交流 ・ エコ農産物の生産者のネットワーク化・流通拡大 ・ 多様な主体と土地所有者等による野生動植物種の保存活動に関する協定締結 ・ 里山森林資源活用による CO2 排出削減・吸収量のクレジット活用、未利用森林資源を活用したニュービジネス創出など、山村と企業、都市とのマッチングを推進 ・ 「里山創成ファンド」創設による、里山資源を活用した生業創出などの民間の取組支援 ・ 「里山保全再生協定制度」を活用した民有地の利用保全
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験・交流機会の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村や NPO と協力した参加体験型行事 ・ 「里山里海展」開催、国際生物多様性の日のイベント実施等、様々な機会に活用による理解促進 ・ 里山に関する体験学習プログラムの実施 ・ エコツーリズム、グリーンツーリズムの推進 ・ 企業と連携したエコツーリズム ・ 市民応援団「自然環境サポーター」育成 ・ 耕作放棄農地等の市民農園としての利用 ・ 学校教育機関等と連携した耕作放棄地活用 ・ 自然活用型野外 CSR 事業 ・ 社員教育と併せた里山保全活動促進 ・ 農業体験を通じた食農教育・環境教育 ・ ボランティアや企業等と、行政、学術研究機関との協働推進に向けた県民参加の森づくり ・ 農村ボランティア制度等の活用による中山間地域の農地保全 ・ 里山保全活動のモデル拠点を活用した企業や学校等の活動の受け入れ ・ 他分野（子育て、福祉、環境教育、歴史・文化など）との横断的連携による谷戸環境の積極的活用 ・ 「都会の田舎暮らし（b なライフスタイル）」の提唱（市民一人ひとりがライフスタイルの一部に組み込み、地域の原風景とも言える谷戸を訪れ、

		散策し、生き物とふれあい、農に関わり支援などをしていく)
	・市民の消費生活等を通じた参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培きのこの生産拡大や木炭・竹炭の需要拡大 ・間伐材の需給情報提供、県産木材の利用拡大・認証制度の普及 ・「環境保全型農業」により生産した地元農産物を、都市と農村の交流、学校給食での利用拡大などにより市民に提供し「地産地消」を推進 ・地域の身近な生きものをシンボルとして活用した農産物の高付加価値化 ・都市と山間部が連携した持続可能な商業流通活動のしくみ構築 ・カーボンオフセット等の活用によるインセンティブの付与